ある学校のラグビー用グラウンドでの練習風景より、物語は始まる。
「それでもキンタマつけとんのか～！」と怒号を飛ばしながら走り回る監督らしき人物を誰も止められないようだ。

それにひきかえ、その監督を尻目に、当の部員達は全くやる気がないようである。

清水という唯一まじめそうな部員が、決死のタックルを監督に挑み、なんとか止めるものの、自身はあえなく気絶してしまう。
監督、それを見て「キンタマつけたやつもおったか…」
どうも、**キンタマが好きな監督**である。
そして「おまえらにタックルされるようじゃ、わしも年をとったもんだ！！」
おそらく、この監督は**かつて凄かった系のキャラ**なのであろう。

しかし、そんな様子をみても、全く指揮のあがらない他の部員達。
叶（かのう）という部員は、**草むらで昼寝**をしている始末である。
監督「ああしてのんびりしていられるのも今のうちだ。近いうちに新しい監督がくることになっとる！！現役でも通用する男だ。今までのようにはいかんぞ！」と言い残し、去っていく。
それでも部員達は「誰がこようと同じでぇ！勝手にやるだけよ！」とスルー。
ほとんど誰も止められないくらいなのだから、**今の監督のままでも十分な気もするが。**

場所は変わって、校内の職員室。なんと先ほどの監督は、校長だったようだ。
甲子園の中継に夢中になっている教員達に対して、
「バッカモ～ン！高校野球が男のやるスポーツかァ！」
「**男だったら花園じゃい！**」
「プロ野球へ行くための道具になりさがっちまってるじゃねえか！！」
とぶちまける。
高校ラグビーファンよりも圧倒的多数を誇るであろう**全国の高校野球ファンや、高校球児達に対して正面からメンチを切る**名台詞である。

監督が去っていった後、教員達はボヤいている。どうやら、**監督は全国から落ちこぼれど**

もを集め、ある条件をつけてラグビーをやらせているようだ。
職員「どうせ全国から集めて、創立一年目のこの高校の名前を売るには、花園なんかより甲子園のほうがいいもんなァ！」
まぁ、至極まっとうなボヤきである。

ちょうどその頃、ラグビー部員達はくだらない遊びに耽りながら、先ほど話にでた、「新監督」の心配をしているようだ。
※くだらない遊び

部員「校長が監督だったときみてえにいくかな！？」
この部員達、「**高校にも入れないような不良達だが、今年一年間だけラグビーをやりさえすれば、あとの二年は遊んだって無条件で卒業させてくれる**」という条件で、ラグビーをやっているらしい。
「その一年間だってラグビーなんてダセえ遊びをやってられっかってんだ！！」と、**ナイフを持っている男**もどこまでも強気だ。彼らの前科は空き巣、強盗 etc のようである。

ここで、練習中に昼寝をしていた叶というやつは無言を貫き、立ち去っていく。いったいどういうキャラなのだろうか。

場面変わって、夜の繁華街。
女の子「なっ、なにをするのよ！！」
と予想できる展開。どうやら女の子が、野郎どもに絡まれているようだ。
暴漢「ディスコいこうぜ！塾で頭を使った後は、体を動かしてスッキリさせなきゃあ！！」
と**完全に現代とは感性のずれた台詞**で、女の子に絡む男達。ディスコ･･･くすっ（笑）。

拒絶する女の子だが、不良のパンチを受け眼鏡を壊されるばかりか、服まで破かれてしまう。

暴漢「最近の**高校生**は発育ええのう！」
最近の高校生の発育がいいのはもはや当たり前で、現在この漫画が出ていたとするならば、**この部分は中学生以下に置き換える必要がある**だろう。
何気ない不良の台詞にも、日本の高度成長を感じ取ることができ、感慨深いものがある。

ナイフを突きつけるなど、女の子への迫り方もエスカレートする不良達。
本当にディスコに誘いたいのだろうか？とてもイケないことをしようとしているようにしか見えないのだが、これは素人考えだろうか。

そこへ！不良達の背後にある男が！アッー！！叶だ！！
「助けて叶くん！」
どうやら女の子と知り合いらしい。
当然のごとく、叶 vs 不良達のバトルに発展しようとした瞬間、バイクのヘッドライトがまぶしく点灯するとともに、第三者がバイクごと突っ込んできた！
全く意外な展開である。
ちなみにこのバイク、**不良の一人をハネてそのまま壁まで吹っ飛ばした**。いいのか、これは。

うろたえる不良達だが、さすがヘッドの男が「どこの組織の者だっ！」
こんな場面でも、**組織に責任の所在を求めようとする日本人の悲しい性**を感じてしまう。

こんどこそ、リアルバウトになった。ヘルメット着用のバイクの奴 vs 不良達である。このヘルメット野郎、非常に強い。
「**ニーパット！**」などとプロレス技名を叫ぶ余裕まで残しながら、敵を蹴散らしていく。

だが、一瞬背後に隙ができてしまう！そこへ叶登場！

ものすごいアングルの跳び蹴りを喰らわせ、ヘルメット野郎の危機を救った。

女の子の救助に成功し、ヘルメット野郎は名前も語らず去っていく。
残された叶と女の子だが、叶は優しく上着をかけてやる。
しかし女の子、「助けてくれたのはあの人なんですからね！！**あなただってあの暴走族と同じようなもんじゃないの！**」と、暴言を吐いて去っていってしまう。
無言で見送る叶。でも、ついさっき「助けて、叶くん！」って言ってたじゃん･･･。

しかし、どうやらこの叶もいわくつきのようだ。

翌日の学校。あのバイク野郎がド派手に校内に乗り込んできた！
そして、校長室。どうやらバイク野郎が、噂のラグビー部の新監督であるようだ。
しかし、校長「本当はきみの兄さんに頼んだんだが･･･ダメならしかたがない」
どうやら、校長が頼みたかった本人ではないようだ。

そして、ついにバイク野郎の素顔が･･･！！

なんと女性だった。**たたずまいが無駄にカッコいい**。

校長「本当に大丈夫かね･･･**ラグビーは紳士のやる最も野蛮なスポーツといわれ、単なるスポーツではなく、格闘技なんだぞ！**」
校長のこれは名台詞であろう。
こうして相変わらず心配を続ける校長。無理もない、ただのラグビー部員ではなく**常にナイフを常備している犯罪少年達**をこれから相手にしなければならないのだから。

それでも自身満々な本人に押されて、校長はこの女性をラグビー部監督に任命した。

さあ、新監督（女性）の下での練習が始まった。監督は冴木麗緒（さえきれお）という名前のようだ。
冴木監督「今日からおまえらの監督になった冴木麗緒だっ！ぞんぶんに相手してやるぜ！」
多少引き気味の部員達。
「女だったとはよお！」「それにしてもでけえ女だな！」「まるでアマゾネスだぜ！」
この「まるでアマゾネス」という発言についてだが、気軽に「まるで」に続けて使えるほど**『アマゾネス』の知名度は高いものなのだろうか。**
※アマゾネス
アマゾネスとは、ギリシア神話に伝えられる戦闘女族のこと。
基本的に女性のみで構成された狩猟部族であり、子を産むときは他部族の男性の元に行き交わった。男児が生まれた場合は殺すか、国外追放するか、障害を負わせて奴隷とするか、あるいは父親の元に引き渡し、女児のみを後継者として育てたという。

それから、部員の中に叶をみつける監督。「お前さんもか！よろしくな！」
ちょっとうれしそうである。

すると部員の中から一言、「**けっ！女なんかにつきあっていられっか！**」と暴言。
こういうときだけ上から目線な、器の小さい男の極みである。
ちなみにこの漫画、男尊女卑が当たり前だった時代に書かれたものなので、これ以後も女性を暗に下にみる発言がところどころに見られることを先にことわっておきたい。今も昔も「世間一般の常識」には、気をつけることにことしたことはありません。

だが、そこはアマゾネス。不敵な笑みを浮かべて迎え撃つ気満々。なにやら荒れ模様だ。